



災害発生

# 携帯電話、繋がらない！ どうすればいいの!?

プロが勧める、災害時に一番役立つ無線機



災害時に  
リスク低減と、通常業務にスムーズに戻るためには…

その① 被害状況の把握と安否確認

その② 対策と復旧への情報伝達

『ハザードトーク(緊急災害情報無線機)』があれば災害発生前⇒発生時⇒復旧と、その都度必要な情報を収集し、被害を最小限に抑え復旧をいち早く行うことができます。日本全国で利用できる超広域通信手段として企業・自治体の防災・減災・BCP対策に大活躍です。

災害発生前に

↓『災害警報・地震速報』で被害を軽減

発生直後は

↓『グループ通話』で迅速な安否確認

復旧に向けて

↓『GPS・画像・動画』共有で  
場所と被災状況を把握



電気・通信のプロフェッショナル

## 田中電気株式会社

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-16-9

お問い合わせの際は「DMを見た」とお伝えください。

☎0120-150-712 担当：山田

✉info@tanaka-denki.co.jp

DM管理番号：DM-153 | P

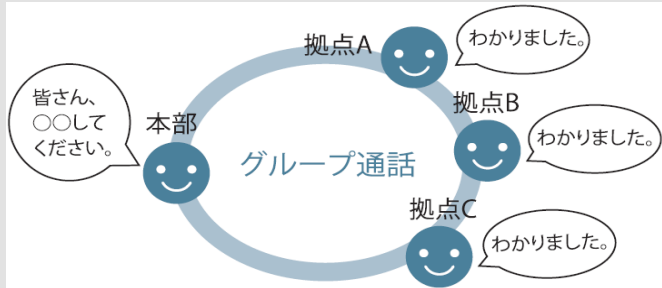
## 『災害警報』機能付きで被害を軽減



いち早く知り、  
行動する!!

- ✓ 緊急地震速報
- ✓ 津波情報
- ✓ 気象警報注意報

## 『グループ通話』で迅速な安否確認



**POINT** 緊急業務は無線が迅速で、かつ伝達間違いリスクが低減される。

## 写真・動画で正しい情報を「共有」



## 他端末との比較

### 災害時における屋内通話の重要性

通話の度に外に出向くことは時間的にも体力的にも大きな負担に。また、担当が常に離席・外出しては、残された多数の社員が中で見守る中、BCPが遅々として進みません。ハザードトークなら耐震化ビルから、通話目的で外に出る必要はありません!

屋内通話ができない機器(主に衛星電話・MCA)の場合

電話かけるために何度も外に出なきゃ使えないしかも階段往復...

相手から電話がくるかもしれないから、でも、ずっと外で待機...

中に戻って伝言伝えに行かないと...中に持ち帰ったら着信できない...

「外で電話しなければ」という煩わしさによって業務が停滞・非迅速的

ハザードトークの場合

**屋内で使える!!**

携帯電話と同じように屋内で使えるためBCP/業務が円滑化

### 災害発生時の通話手段比較

**重要!**

携帯・固定電話	PHS	MCA無線	衛星電話	ハザードトーク
✗	△	△	△	○
災害時は警察や消防など緊急電話が優先されるため、発信は制限される。特に携帯電話は、東日本大震災時に80%の発信が制限された。	携帯電話の設備に比べ、基地局が停電時には脆弱なため通話できない可能性大。東日本大震災時には基地局の電源が落ち利用できない事例が発生。	屋内では通話困難で、MCA基地局からの電波が届く範囲でしか会話ができない。混雑時は順番待ちになることも。	屋内では通話困難で、天候にも左右される。仮に通話できても1対1での通話のみなので、本部がずっと話中で繋がらないことも。また通話相手も外に出ているタイミングしか話せない。	屋内外で通話が可能。docomoの高品質なセッションでの、4G/3G、及びWi-Fiを利用できるためエリアを問わず、災害時にも繋がりが易い。グループ通話も使えて効率的な共有も、通話以外の機能も充実。
×	○	×	×	○
陸上移動車	ビル群・都市部	ビル群・都市部 陸上移動車	ビル群・都市部 海岸・広い公園・山岳	ビル群・都市部 地下・トンネル

ご相談・注文はこちら

☎ 0120-150-712